

農業経営の複合化により通年での障害者就労の確立と地域に貢献

令和3年1月時点

〔運営主体：有限会社 あわら農楽ファーム〕 〔事業所：就労継続支援A型事業所「農楽里」〕（福井県あわら市）

WEBサイト：<http://www.awara-nougaku.jp>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 平成13年に福井県内の社会福祉法人から独立した「有限会社シーネット坂井」を平成25年に改称し「有限会社 あわら農楽ファーム」とした。また、同年に就労継続支援A型事業所「（株）農楽里」を設立し、連携することで障害者の就労拡大や労働環境の整備等を目指す。
- あわら農楽ファームでは、米を中心に畑作物や施設園芸、柿の生産、あんぽ柿やかき餅などの加工品の生産・販売を行っており、（株）農楽里の社員である障害者11名が施設外就労にて農作業や農産物加工に携わっている。
- 指導職員により、各障害者の適正などを把握した上で、作業指示・支援を行い共同で作業を行っている。

取組の内容

- ◆ 経営面積は、水稻は70ha、畑作物は4ha、果樹1haであり、主力の米は特別栽培米（減農薬、有機肥料）にも取組んでおり、イチゴやマルセイユメロンの施設園芸や、柿等の生産を行っている。
- ◆ 経営の安定と通年作業の確保のため、農産物の直売や「かき餅」「あんぽ柿」「ジャム」などの農産物加工（6次産業化）に取り組む。
- ◆ 高設ステーションで栽培する観光イチゴ農園の運営。今後、イチゴハウスを増設し観光客の受け入れ拡大を予定。

取組の効果

- ◆ 通年における作業を確立したことで、障害者の就労の場を安定的に確保。
- ◆ 特別栽培米の取組や、玄米を低温保管し注文を受けてから精米にすることで、環境にやさしい農業、高品質で安心・安全な米販売を確立。年間200トンの米販売のうち4割が福祉ネットワークを通じ病院や介護施設に、6割を卸、スーパーや通販での直売を実施し販路拡大。
- ◆ 農福連携により労働力の確保や、農産物加工に取り組むことで、年間販売額の向上が期待できる。
- ◆ 観光イチゴ農園は、年間4,000人の来園があり人気。

柿の収穫作業



イチゴ観光農園



イチゴジャム加工



甘藷の収穫作業

